



前橋市総合教育プラザ 幼児教育センターだより

第87号 令和8年8月発行



こどもたちの「記号接地」問題

教育長 山中 茂樹

最近、A I 関連の本の中で「記号接地問題」という言葉を知りました。A I やコンピュータが扱う「言葉（記号）」を、現実世界の感覚や体験とどのように結び付けるかという問題です。例えばA I は「リンゴ」の色や形は膨大なデータから識別できても、人間の感じる味や感触など実感を伴う意味理解はできないそうです。

かつて、低学年で国語の授業をした時のことです。「たんぽぽのちえ」という説明文を読んでいた。その中に「花は、しぼんで」という表現と「わた毛のらっかさんは、すぼんで」という表現があります。「しぼむ」と「すぼむ」は同じ意味で使うこともありますが、子どもたちはその違いに疑問を感じました。そこで、それぞれの生活経験を想起させて話し合ったところ、「風船」と「傘」の違いを想起することで、子どもたちは納得するに至りました。

赤ちゃんが言葉を獲得する際には、周囲の大人が発する様々な音声から必要な音を聞き分け、そこに意味があることを発見し、ものと言葉との対応を認識し、語彙を増やしていくそうです。色や味など微妙な違いを表す言葉があるのは、違いを区別する感覚があるからだとも聞きますが、豊かな語彙は豊かな感覚とつながっているように思います。そして、その感覚は、幼いころからの様々な直接体験、五感を通して心を震わせた経験から得られるのではないのでしょうか。

日常的に草花を目にしていれば、形や色の変化とその生長を感じるでしょうし、砂遊びや水遊びに夢中になるうちに、土や砂、水の感触を知らず知らずに覚えていくでしょう。戸外に出ていけば、季節の変化や朝夕の空気の違いを肌で感じることもあると思います。友達と一緒に走り回ったり、ときにはけんかしたりして、楽しさやくやしさ、悲しさを知ることになります。言葉とともに様々なことを学習し成長していく幼児期以降、特にこうした経験が大切だと思うのです。

思考を深めるにも他者の気持ちに共感するにも、「言葉」は大きな働きをします。しかし、その言葉に実感が伴っていなければ、思考は表面的で共感も空々しいものになることでしょう。

もちろん、成長に伴い、語彙は抽象的になり思考も複雑になります。全ての言葉に実感が伴うわけではありません。辞書で調べるように言葉で言葉を置き換え、理解することも必要で、それがなければ高次な思考に至ることはできません。しかし、その際の最も基盤となる言葉に、しっかりとした実感がなければ、複雑な思考も論理も土台から崩れてしまうのではないのでしょうか。

「記号接地」は、実はA I だけの問題ではないかもしれません。何かと話題のA I ですが、将来、どんなに技術が進歩してもそれを使いこなす豊かな心を育むためにも、子どもたちには体験や実感を大切にしたいと考えています。



幼児教育センターってどんなところ？



【相談事業】 就学に向けた不安や心配についての相談を行っています

学校の生活に
馴染めるか心配…

落ち着きがないけど
授業中座って
いられるかな…

ことばの発音が
少し不明瞭かも…

就学まで
どんな流れで
進めていけばいい？

まずは お電話ください。
027-210-1234

電話で面談の予約を取り、以下の流れで相談を行います。
対象：前橋市内在住の年長のお子さん
(12月からは年中のお子さんも受け付けます)

面接相談

就学に向けた不安や心配ごとをじっくりお聞きし、幼児教室やことばの教室など、お子さんの個性やペースに合わせたサポートをご案内します。

希望者

幼児教室

一人一人のお子さんに合わせた遊びや活動を通して、満足感や達成感を味わえるよう支援し、自信や意欲を育みながら、入学までの一年間をサポートしていきます。

ことばの教室

言語聴覚士の先生と一緒に、お口の体操をしながら、言いづらい音や言葉の練習をしていきます。

特別支援学校・特別支援学級への希望者

通常の学級への希望者

教育支援委員会

就学サポートシートの作成（希望者）

特別支援学校

特別支援学級

通常の学級へ（通級利用も可）

わたしたちがいつでも相談、サポートいたします！



猿渡相談員

教室の中で言葉や
コミュニケーション
についてアドバイス
していきます。



林相談員

一人一人のよさを
大切に子どもが
動き出す力を応援
していきます！



久保田相談員

「楽しかった」を
積み重ねて1年生
まで！！



石田相談員

一人一人の
ペースを大切に
サポートします。



小暮相談員

子どもたちの笑顔
を増やしていま
しょう！！



堀言語聴覚士

遊びながら一緒に
楽しい時間にして
いきましょう。

【研修事業】

前橋市内の先生方を対象に様々な研修を行っています



こども教育 研修会

希望の方は
お申し込みを！



学校の先生も
大歓迎！

- 第4回「多様な子どもたちの発達支援 なぜこの行動？ どう支援する？」
- 第5回「知っていますか？はじめの100か月が大切なこと」
- 第6回「発達障害のある子のパーソナルデザイン～ちょいサポで「ちいさなできた」を～」
- 第7回「不適切保育の理解と予防～それは本当にこどものため？～」
- 第8回「発達心理学の視点から乳幼児を捉えようー0～6歳までの変化と保育環境ー」

保幼小連携の 研修会

市内の全部の小学校と園所の先生が集まり、
今の1年生が「卒園時にどんな姿だったか」
「入学後の4・5月はどんな様子だったか」を
互いに共有し、子どもの成長をつなげるため
熱心に話し合いました。

先生たちも学んでいます！保幼小連携で大切なこと

保幼小研修会にて塩崎先生の講義を受けて…

「安心できる環境」
心理的安全性が
新しい挑戦への自信を育む

「信じて、任せて、支える」
お膳立てしすぎず
自発性を引き出す関わりへ

小学校の授業を受けられるようになるため！ではなく
“学校を好きになる” “安心感をもつ” “自信をもって自ら行動する”
という生活の基礎が大事だと
知りました。
(園所)

子どもは安心してできれば
自分の力を発揮できることが
分かりました。まず安心して
自分の考えを言える関係性を
築いていきたいです。
(小学校)

手出しや声をかけすぎず
子ども自身が『考える』ことを
大切にして、子どもたちの
興味に寄り添い、一緒にたくさん
の『やりたい！』を発見
していきたいです。
(園所)

子どもに任せる
ことで気付きや主体性が
広がることを実感しました。
これからは必要な指示以外は
ぐっと我慢して子どもたちの
声に耳を傾けたい
です。(小学校)

今後は…

④ 地区ブロック研修の強化

9月からは校園所が互いの保育や授業を見合い、保幼小のつながりや
学びの連続性についての理解を現場レベルで深めます！

⑤ 「架け橋期」の実践

昨年度作成した架け橋期のカリキュラムを本格的に実践していきます。

具体的な取組事例については、次回号でも詳しくご紹介する予定です。

出前研修 出前相談

15名の幼児教育アドバイザーがお伺いします！

荒瀬優子	稲塚由里	井上昭子	今井寿美枝
大島みずき	奥野みどり	塩崎政江	関谷祐貴子
田中輝幸	都丸千寿子	永井広子	橋爪浩子
	三好玲子	山口裕子	横坂好枝

電話で依頼をお受けします！

☎ 027-230-9089

依頼内容（例）

- ・気になる子への対応の仕方を教えてほしい。
 - ・園内研修で講話をしてほしい。
 - ・子育て支援のイベントをしたい。
- など



幼児期の子どもの成長ステップと 大人の関わりヒント集

「自分で！」の気持ちが育つ

体も指先も、もっと自由に

走る、跳ぶなど体全体を使う遊びが大好きになります。指先も少しずつ器用になり、「自分ひとりでやってみたい！」という意欲がぐんと高まる時期です。

大人へのヒント

時間がかかっても「自分でできたね！」と声をかけ、満足感をたっぷり味わわせてあげましょう。



イヤイヤは「自律」への一歩

自分の気持ちを伝えたい

自分の意思がはっきりしてくるため、「イヤ！」と自己主張することも増えます。これは自分の力で動こうとしている成長の大切な証拠です。

大人へのヒント

まずは「～したかったんだね」と気持ちを受け止めてあげると、子どもは安心します。

一緒にうれしい時期

友達と遊ぶ楽しさ

自分とお友だちの違いがわかり始め、数人で一緒に遊ぶことが増えます。順番を待ったりおもちゃを貸し借りしたりと、簡単なルールを学び始めます。

大人へのヒント

ぶつかり合いも大切な経験。「どうすればよかったかな？」と一緒に考えるチャンスです。



「なぜ？」が学びの入り口

不思議を見つける天才！

身近な自然や身の回りのことに「どうして？」と理由を聞くことが増えます。ハサミやノリなど、道具を使って「目的のもの」を作ることにもできるようになります。

大人へのヒント

正解を教えるよりも、「不思議だね、どうしてかな？」と不思議を面白がる心に共感しましょう。

「もうすぐ1年生」 の自信

自分で考え、行動する力

時間の感覚や文字・数への関心が強まります。自分のことは自分でする習慣が付き、見通しをもって行動できるようになります。

大人へのヒント

先回りせず、自分で考えて動く姿を見守りましょう。自分で決めて行動できた自主性をしっかり褒めてあげることが大切です。



みんなで一つの目標へ

相談して進める

「こうしよう！」と相談し、役割を分担して大きなものを作ったり、劇遊びを楽しんだりします。

ゆずりあう心

相手の気持ちを考えて、自分の気持ちを抑えたり我慢したりすることもできるようになります。

大人へのヒント

「できた結果」だけでなく、がんばった「プロセス」を認めることで、小学校へ向かう自信を育てましょう。

育まれてきた「芽」を花咲かせる時期

主体的な学びの定着

授業の中でも自ら不思議を見つけ、試行錯誤する「学びのプロセス」を繰り返すことで、主体的に取り組む態度が定着していきます。体全体や五感を働かせ、実際にやる「具体的な活動」を通して、知識の素地を身に付けていきます。

大人へのヒント

早く「小学生らしく」と焦らず、学校は安心できる場所だという実感を育てましょう。じっと座ることだけを求めるのではなく、子どもが夢中になって取り組んでいる「過程」を認め、学習への自信と意欲を支えましょう。

